

荒井良雄教授の急逝を悼む

Mourning over the Death of Professor ARAI Yoshio

宗片（上田）邦義

MUNAKATA Ueda Kuniyoshi

Abstract: Since he first came over to see my *Noh Hamlet* at Daigoso in Shizuoka Prefecture in 1982, Professor ARAI Yoshio (1935-2015) has always evaluated my *Noh* adaptation of Shakespeare highly and encouraged me to continue the experiments in English and Japanese for 32 years. He wrote “*Noh Hamlet*” was one of the three major Japanese productions based on Shakespeare, together with TSUBOUCHI’s *Kabuki Kiri-hitoha* and KUROSAWA’s film *Macbeth*. A student of R.H. Blyth and his colleague at Gakushuin University, ARAI respected Blyth’s Zen spirit. An excellent professor of English, he was a unique comedian also and read the complete plays of Shakespeare aloud in public. I had a dream in January this year. I was being seated with the Emperor, who sat next to my left side. The person who sat next to my right side may have been Professor ARAI.

NHK や民放のラジオやテレビの英語講座でご活躍の荒井良雄先生が、わざわざ静岡県は磐田市の醍醐荘へ『英語能・ハムレット』を観に、講座の外国人講師を伴っておいでくださったのは、1982年の秋であった。そしてその後、まだ実験段階にあって英語シェイクスピア能の制作公演を研究模索中だった私に、大変有難い激励のお言葉を送ってくださった。それは、

『能・ハムレット』は、坪内逍遙がシェイクスピア史劇を歌舞伎に生かした『桐一葉』、黒沢明が『マクベス』に基づいて映画化した『蜘蛛巣城』に続いて、日本人がシェイクスピアを使って独自の新しいドラマを創造した画期的な公演であった。

に始まり、

シェイクスピアが詩であり、能が詩であり、この二つを結びつけた
 学兄に詩心があつてはじめて可能な試みであり、

と持ち上げてくださって、結びの一節は、

どんなドラマの翻訳よりも、あるいはどんな論文や研究発表よりも、
 全人格的で、悟りの境地に達しておられるという意味で、私にとつ

ては、刺戟的であり、具体的であり、見ていて安らぎをおぼえた。

すばらしいことだ！演劇の国際交流という点からも、宗片先生のこ

のたびの快拳に、心から拍手を送りたい。1982年12月

という身に余る賛辞であった。

そしてこういう称賛激励の態度は、昨年（2014年）氏の主催で「阿佐ヶ谷ワークショップ」で講演させていただくまで32年間、変わることはなかった。すなわちこの間、氏は絶えず私を励まし続けてくださったのだ。いただいたお手紙やお葉書は、おそらく300通を超えるであろう！

さらに、今にして思えば、一昨年あたりから、早く後継者を養成するよう、そして学会会長も若手に引き継いではどうか。ブライズ先生のマニュスクリプトは、日大図書館に収められるよう秋山正幸先生ともご相談し了解を得てある、などのアドバイスをもらったことが、納得できるのである。

私は氏のそういうご親切ご恩情に支えられて、これまで自分なりの活動を続けてこられたのであった。最近のそうしたアドバイスに対して私は、これまでの経験を生かしてもう少し、とか、まだまだこれからが本番、などと、尾崎行雄氏の言葉を真似てお答えしたのだった。

私は氏が昨年来、口腔ガンを患っておられるとは全く知らなかった。無情な言葉を発したことを、今は本当に申し訳なかったと思っている。

「惜しみてもなお余りある君なれど・・・」どなたかの歌をかみしめている。また、「現世も^{うつしよ}神世^{かみよ}かくり世^よへだてなく まこと心^{ごころ}は通^{かよ}ひあふかも」
というお歌も。

氏は一種すぐれた狂言役者でもあって、シェイクスピア劇全曲のユニークな公開朗読者だった。学習院大学では、ブライズ先生の教え子で、同僚で、駒沢大学に移られてから、先生の禅精神の讃美者で平和主義者だった。

一月に見た夢の中で、陛下とご一緒の席で、私の右手に座っておられたのは、荒井氏だったのかもしれない。